

日本都市計画学会関西支部 第16回研究発表会プログラム

2018年7月28日(土) 於:大阪市立大学文化交流センター

会場:ホール

10:00 - 10:05 開会挨拶/支部長:小浦 久子(神戸芸術工科大学)		
セッション I 座長 武田重昭 (大阪府立大学)	1	○水島あかね, 玉田浩之 明石工業高等専門学校 神戸市塩屋ジェームス山の戦後拡張計画について
	2	○佐伯亮太, 松本邦彦, 澤木昌典 大阪大学大学院工学研究科 農住都市構想による初期賃貸住宅に関する研究 -昭和46年~51年に農地所有者等賃貸住宅建設融資利子補給臨時措置法によって建設された賃貸住宅について-
	3	○青木嵩, 角野幸博 関西学院大学大学院総合政策研究科 高齢化・人口減少過程における郊外住宅地居住者の生活行動特性 -兵庫県三木市緑が丘町・志染町青山地区を対象に-
	4	○玉井香里, 三好庸隆 武庫川女子大学大学院生活環境学研究科 公的賃貸住宅が内包する課題について -大阪府住宅供給公社・茶山台団地居住者アンケート調査より-
	5	○田中稜, 山口敬太, 川崎雅史 京都大学大学院工学研究科 明治-昭和期の随筆にみる京都の風物に関する研究
	6	○中野恵一, 岡田昌彰 大東建託株式会社 大阪府下における路面電車の遺産的価値に関する研究
総括		
11:28 - 11:38 休憩		
セッション II 座長 波床正敏 (大阪産業大学)	7	○吉武駿, 山口敬太, 川崎雅史 京都大学大学院工学研究科 道路施設に着目した大阪御堂筋の街路景観の変遷
	8	○川地遼佳, 吉田長裕 大阪市立大学大学院工学研究科 大阪御堂筋におけるサービスレベル概念を用いた歩行者自転車利用者のための道路空間再分配の評価
	9	○成田勝彦, 菊池義浩 兵庫県立大学大学院地域資源マネジメント研究科 地方都市の移動手段としての自転車の可能性 -GISによる到達可能エリア分析から-
	10	○加畑敦嗣, 大西諒, 山口行一 京都府山城広域振興局 GPSログデータを用いた京都市観光におけるレンタサイクルの回遊特性 -外国人観光客を対象に-
	11	○川井千敬, 和泉汐里, 田中優大, 筈谷友紀子, 阿部大輔 龍谷大学大学院政策学研究科 京都市三区(中京区・下京区・東山区)における簡易宿所営業の立地の特徴に関する研究 -地価と用途の変更に着目して-
	12	○平松宏基 京都大学大学院工学研究科 長浜市中心市街地における空地の位置づけと変遷に関する研究
総括		
13:01 - 14:00 昼食		
セッション III 座長 越山健治 (関西大学)	13	○魚返梨那, 糸川愛美, 山口行一 大阪府都市整備部 大阪市梅田地下街における避難行動に関する分析
	14	○横山広充, 小川達也, 西應浩司, 宮岸幸正 大阪工業大学ロボティクス&デザイン工学部 経路探索時における地下街の空間認知に関する基礎的研究 -大阪駅南地区地下街を事例として-
	15	○土生健太郎, 小谷通泰, 寺山一輝 京都大学大学院工学研究科 都心商業地域における歩行者による回遊行動のモデル化 -事前の活動計画からの変更挙動を考慮して-
	16	○久保山凌, 村上裕基, 山口行一 大阪工業大学大学院工学研究科 神戸三宮地域におけるカフェ利用者の回遊行動分析
	17	○中江拓二郎, 松本邦彦, 澤木昌典 大阪大学大学院工学研究科 路上喫煙禁止地区における喫煙者の滞留空間の特徴 -神戸市三宮・元町地区を事例に-
総括		
15:10 - 15:20 休憩		
セッション IV 座長 木下光 (関西大学)	18	○熊澤輝一, 鎌谷かおる, 木村道徳 総合地球環境学研究所 古写真ワークショップを通じた近郊山村地域の将来像の探索 -滋賀県高島市朽木地域の事例-
	19	○平瀬耕, 澁谷成彦, 川口将武 NPO法人環境デザイン・エキスパート・ネットワーク 東大阪市枚岡地域における地域還元手法としてのローカルメディア制作とその住民評価 -KJ法を用いた地域らしさの調査分析から-
	20	○道越亮介, 北詰恵一, 宮本和輝 関西大学大学院理工学研究科 日常生活圏単位での健康まちづくり指標の体系化
	21	○副島脩平, 岩崎義一 大阪工業大学大学院工学研究科 子供視点に立ったまちづくりの課題と条件に関する研究
	22	○飯田明希, 武田重昭, 加我宏之 西日本高速道路株式会社 「シナリオ型」公園づくりの展開プロセスに関する研究 -大阪府営泉佐野丘陵緑地を事例として-
	23	○岩本圭司, 井本雅史, 岩崎義一 大阪工業大学工学部 関西における鉄道会社の地域密着型事業への取り組みに関する研究
総括		
16:43 - 16:48 閉会挨拶/研究発表委員会委員長:佐久間 康富(和歌山大学)		

注) 1題あたりの持ち時間は13分(原則として、発表8分・質疑5分)ですが、質疑を一括して行う場合があります。